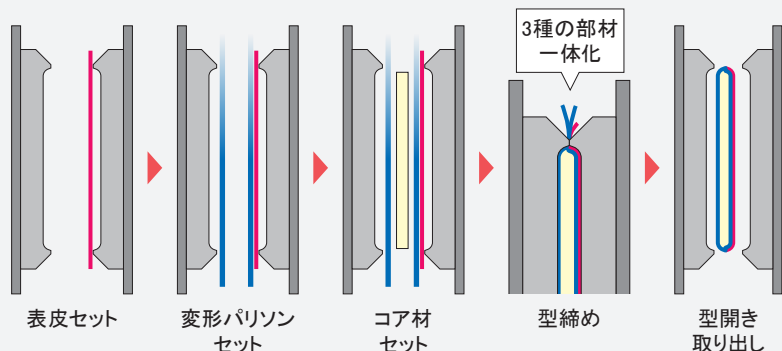


## モノマテリアル化とそのメリット

自動車の内装部品は、基材と表皮に異なる素材が使われることが多く、リサイクル時には分解や分離が必要になり、再資源化が難しい場合があります。そこで注目されているのがモノマテリアル化（単一素材化）です。部品全体を同一素材で構成することで、リサイクルが容易になり、資源循環の効率向上や環境負荷の低減につながります。私たちはこれを循環型経済の実現に向けた重要な取り組みと位置づけています。



### TBM (Twin Blow Molding) 製法



TBM 製法は、シート状の変形パリソンを用いたブロー成形技術で、板状の製品や内部にコア材を挿入した構造の成形が可能です。軽量性・剛性・外観性を両立できることから、自動車のデッキボードなどに適しています。

## モノマテリアルデッキボード



| モノマテ化 |               |                  |
|-------|---------------|------------------|
| コア材なし | 表皮 (PET) →    | PP (質感を再現)       |
|       | 基材 (PP+PE) →  | PP/PE※ (リサイクル可能) |
| コア材あり | 表皮 (PET) →    | PP (質感を再現)       |
|       | 基材 (PP+PE) →  | PP/PE※ (リサイクル可能) |
|       | コア材 (PS+PE) → | EPP              |

➡ モノマテリアル化を実現し、リサイクル性向上

※PP/PE: プロピレン・エチレン共重合体→PPとしてリサイクル可能

TBM 製法※を用いたデッキボードは、表皮・基材・コア材からなる多層構造で構成されています。従来は、表皮に繊維素材として優れた PET が使用されていましたが、このたび、PP を主材としつつ同等の質感を備えた表皮を開発しました。合わせて PP 主材のコア材を使用することで、モノマテリアル化が可能となり、リサイクル性の向上と環境負荷の低減を実現しています。